

令和8年度 兵庫県農業気象技術情報第5号（9月情報）について

1 気象経過・予報から想定される栽培上の留意点と対応策

作物	地域	栽培上の留意点	対 応 策
共通	全県共通	1 栽培管理等 台風シーズンに入るので、気象情報をチェックして、早めに台風に対する備えを行う。 各作物の事前及び事後対策は、令和7年7月18日付け農園第1287号「台風襲来に対する農作物等の備えと事後対策について」 （https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/documents/sonaetojigotaisaku.pdf）を参考にする。	
水稲	全県共通	1 生育 県北部では、「コシヒカリ」の出穂期が平年よりも4日程度早まっており、登熟期間中かなりの高温で経過していることから、成熟期が早まる見込みである。 県南部の出穂期について、極早生品種の「キヌヒカリ」、「どんとこい」は平年より1日早く、中生品種は「きぬむすめ」で平年より1日早く、「ヒノヒカリ」では1日遅くなった。晩生品種の「山田錦」は平年より2日遅くなった。生育期間中、かなりの高温であったことから極早生品種では成熟期が早まる見込みである。 2 栽培管理等 落水まではできるだけ飽水管理に努める。水が少ない場合は走り水でも良い。ほ場の乾燥状況に注意して、収穫作業に支障のない限り、落水時期は刈取7日前を目安とする。 適期収穫を行う。刈取時期の目安は、稔実もみの85%（山田錦は90%）が黄化したときである。特に極早生品種は胴割れ防止のため、玄米水分の低下に留意し、刈り遅れに注意する。黄化もみ率は正常穂で判定すること。 乾燥作業前は必ず水分チェックを行い、急激な乾燥は避ける。外気温が高いときに乾燥設定温度が低いと、乾燥時間が長引いて、品質が低下することがあるので注意する。	

作物	地域	栽培上の留意点	対 応 策
水 稲	全 県 共 通	3 病害虫 (1) 穂いもちの発生予想は平年並となっており、谷間や山陰など日陰になりやすいほ場では注意が必要である。 (2) 紋枯病の発生は平年よりやや少ない。しかしながら、気象条件により、急激に病勢進展する可能性があり、注意が必要である。 (3) もみ枯細菌病の発生は平年並である。 (4) 大型の斑点米カメムシ類（イネカメムシ、ミナミアオカメムシ、クモヘリカメムシなど）について晩生品種ほ場内での発生を確認している。 (5) コブノメイガは平年に比べてやや多いと予想され、地域、品種によっては被害株が散見されている。	3 病害虫 (1) ほ場をよく見回り、いもち病の発生状況を確認する。既に葉いもち病斑がある場合は、防除対策を実施する。薬剤は「病害虫・雑草防除指導指針」を参考に、適正に散布する。 (2) 紋枯病の発生程度はほ場間差が大きいので、ほ場をよく見回り、適宜農薬による防除を行う。また、多発ほ場では次作で紋枯病に適用のある箱粒剤の利用を検討する。 (3) もみ枯細菌病は種子伝染性病害であることから、発病株から自家採種しない。 (4) イネカメムシの対策については出穂期と穂揃期に防除を行う。他の斑点米カメムシ類の防除は、穂揃期に行う。基幹防除後に斑点米カメムシ類の発生が確認された場合は、臨機防除を実施する。また、ヒエやホタルイの穂が発生源となるので、これらの雑草が多いほ場は防除を徹底する。詳細は、8月4日発表の令和8年度病害虫発生予察情報第3号（https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/1676）を参照する。 (5) 被害が著しい場合は「兵庫県総合防除計画」を参考に防除を行う。薬剤は「病害虫・雑草防除指導指針」を参考に、適正に散布する。

作物	地域	栽培上の留意点	対 応 策
大豆	全 県 共 通	1 生 育 開花期は平年よりもやや早い～平年並である。降雨量に偏りがあり、気温もかなり高いことから、地域や圃場によって生育量が大きくばらついている。かん水可能な圃場の生育は旺盛であるが、土壌水分が不足しているところほど、草姿が小ぶりになっている。 2 栽培管理 ほ場の排水を良好に保ちながら、土壌が乾燥する前に、畝間かん水等により土壌水分の変動が小さくなるように管理して、莢伸長期から子実肥大期の莢や子実の生育が順調に進むよう努める。	
		3 病虫害 (1) 立枯性病害（茎疫病、黒根腐病、白絹病）の発生は8月下旬の調査では平年並の発生である。今後の1か月予報では気温は高く、降水量は平年並～多いと予想されている。ゲリラ豪雨などによるほ場の滞水によって発生が助長される場合があり、注意が必要である。 (2) ホソヘリカメムシなど吸実性カメムシ類の発生が見られ、平年よりやや多いと予想される。 (3) 大豆でのハスモンヨトウはやや多いと予想される。	3 病虫害 (1) ほ場の排水対策を行い、発病しにくい環境を作る。畝間かん水を行う場合は、停滞水とならないように排水対策等のほ場管理に努める。 (2) 適期防除に努める。カメムシ類の防除適期は着莢初期～子実肥大期である。 (3) 薬剤がかかりにくい下位葉で幼虫の発生を確認しているため、ほ場を丁寧に観察し、若齢幼虫の集団を葉上で見つけたら、直ちに捕殺する。

作物	地域	栽培上の留意点	対 応 策
キャベツ	千葉県共通	1 栽培管理 (1) 近年、ゲリラ豪雨や台風の発生が多く、降雨に伴う作業の遅れや畝立て時の碎土不良が懸念される。 (2) 定植後に降雨がない場合は、苗の活着不良が懸念される。 (3) 追肥作業が遅れないように注意する。 2 病害虫 (1) ハスモンヨトウの発生は、今後の1か月予報の気温が高い予想のため、やや多いと予想される。 (2) シロイチモジヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、平年に比べてやや多く、今後密度増加期を迎えることから、発生が多くなると予想され注意が必要である。今後、気温は高いと予想されており、本種の増殖に好適な条件が続くと考えられる。	1 栽培管理 (1) ほ場内外の排水性を良好に保ち、特に大雨が予想される場合には排水溝をさらえておく。また降雨による畝の崩れや落水口への連結不良に注意し、冠水時には早期の排水に努める。 (2) 定植後は、かん水チューブ等で十分かん水し、苗の活着と初期生育を促す。土壌が乾燥している時の中耕は浅めに行う。 (3) 条間の追肥は、葉が繁茂しないうちに計画的に早めの実施に努める。 2 病害虫 (1) ほ場をよく観察し、若齢幼虫の集団を葉上で見つけたら、直ちに捕殺する。薬剤は「病害虫・雑草防除指導指針」を参考に、適切に使用する。 (2) ほ場をよく観察し、若齢幼虫の集団を葉上で見つけたら、直ちに捕殺する。本種は茎葉の柔らかい部分を好んで食害する性質があり、生育初期の被害には特に注意する。薬剤は「病害虫・雑草防除指導指針」を参考に、適切に使用する。

作物	地域	栽培上の留意点	対 応 策								
果樹	全県共通	1 生 育 (1) 高温乾燥による果実や根、葉の傷みに注意する。以降の気象状況に留意し、各果樹の生育ステージに適した土壌水分を維持する。 (2) 高温により成熟期が早まる可能性がある。また、果実の成熟は、園地、樹の状態等によってバラツキがあるので、適期収穫に努める。	1 生 育 (1) かん水、敷きわらなどにより適正な土壌水分の確保に努める。かん水の際は、こまめなかん水を心がけ、急激な土壌水分の変化がないように注意する。 (2) 収穫適期は、試食を行うとともに、カラーチャートや糖度計等を活用し、果皮色、糖度、酸含量、果実の硬さ等から総合的に判断する。								
		樹種別の生育状況（8月下旬時点） <table><tr><td>クリ※¹</td><td>生育の進度や毬の肥大は平年並みで推移している。着毬量は「丹沢」でやや多く、「銀寄」「筑波」で平年並み。</td></tr><tr><td>ブドウ※¹</td><td>成熟期は品種により、平年よりも数日～5日程度早い。果粒肥大・食味いずれも良好。着色系品種の着色不良は発生。</td></tr><tr><td>ナシ（青ナシ）※²</td><td>成熟期は平年に比べ2日早く、前年に比べ3日早い。果実肥大は平年並み～やや小玉。</td></tr><tr><td>イチジク※¹</td><td>果実の収穫開始は平年並み。着色がよく糖度も高いが、降雨量が少ないことから果実は小玉傾向である。</td></tr><tr><td>温州ミカン※³</td><td>着果は多く少雨の影響で果実肥大は小玉傾向。果実の糖度は高く、減酸は平年並みである。</td></tr></table> ※¹ 加西市、※² 但馬地域、※³ 南あわじ市		クリ※ ¹	生育の進度や毬の肥大は平年並みで推移している。着毬量は「丹沢」でやや多く、「銀寄」「筑波」で平年並み。	ブドウ※ ¹	成熟期は品種により、平年よりも数日～5日程度早い。果粒肥大・食味いずれも良好。着色系品種の着色不良は発生。	ナシ（青ナシ）※ ²	成熟期は平年に比べ2日早く、前年に比べ3日早い。果実肥大は平年並み～やや小玉。	イチジク※ ¹	果実の収穫開始は平年並み。着色がよく糖度も高いが、降雨量が少ないことから果実は小玉傾向である。
クリ※ ¹	生育の進度や毬の肥大は平年並みで推移している。着毬量は「丹沢」でやや多く、「銀寄」「筑波」で平年並み。										
ブドウ※ ¹	成熟期は品種により、平年よりも数日～5日程度早い。果粒肥大・食味いずれも良好。着色系品種の着色不良は発生。										
ナシ（青ナシ）※ ²	成熟期は平年に比べ2日早く、前年に比べ3日早い。果実肥大は平年並み～やや小玉。										
イチジク※ ¹	果実の収穫開始は平年並み。着色がよく糖度も高いが、降雨量が少ないことから果実は小玉傾向である。										
温州ミカン※ ³	着果は多く少雨の影響で果実肥大は小玉傾向。果実の糖度は高く、減酸は平年並みである。										
		2 病害虫 (1) 8月下旬におけるナシ黒斑病の発生は平年並みである。	2 病害虫 (1) 発生に注意し、適切に薬剤防除を行い、発病が多い場合は必要に応じて臨機防除を行う。薬剤は、「病害虫・雑草防除指導指針」を参考に、適切に散布する。来年の発生予防のため、病芽、病落葉の除去、枝病斑の封じ込め等、越冬病原菌対策を行う。								

作物	地域	栽培上の留意点	対 応 策
果樹	全県共通	(2) 果樹カメムシ類の発生は平年に比べてやや多く、次世代成虫の出現期を迎えていることから、ナシ、カキ、ブドウ、カンキツ等の果実への被害の発生に注意が必要である。	(2) 果樹園への飛来量や飛来時期は、周辺環境の影響を大きく受けるため、地域や園地によって異なる。各園地で見回りを実施し、発生動向に注意し、適切な防除に努める。薬剤は、「病虫害・雑草防除指導指針」を参考に、選定する。詳細は5月20日発表の令和8年度病虫害発生予察注意報第1号 (https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/1621)、8月28日発表の同防除情報第4号 (https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/1695) を参考とする。

◎水稲・大豆の栽培については「稲・麦・大豆作等指導指針」を、防除については「病虫害発生予察情報」及び「病虫害・雑草防除指導指針」を参考にすること。

※本情報は、9月7日時点のデータを元に作成しています。

2 気象予報

(1) 近畿地方 1 か月予報

近畿地方 1 か月予報 (09/12~10/11)		
2026年09月10日14時30分 大阪管区气象台 発表		
向こう 1 か月 09/12~10/11	天候	天気は数日の周期で変わりますが、期間の前半は平年に比べ晴れの日が少なく、期間の後半は平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率 60 % です。
1 週目 09/12~09/18	気温	1 週目は、高い確率 60 % です。
2 週目 09/19~09/25	気温	2 週目は、高い確率 60 % です。
3 ~ 4 週目 09/26~10/09	気温	3 ~ 4 週目は、高い確率 50 % です。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	近畿地方	向こう 1 か月 09/12~10/11	10 30 60
		1 週目 09/12~09/18	10 30 60
		2 週目 09/19~09/25	10 30 60
		3 ~ 4 週目 09/26~10/09	20 30 50
降水量	近畿地方	向こう 1 か月 09/12~10/11	30 40 30
日照時間	近畿地方	向こう 1 か月 09/12~10/11	30 40 30

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

(2) 近畿地方 3 か月予報

近畿地方 3 か月予報 (09月~11月)		
2026年08月25日14時00分 大阪管区气象台 発表		
09月~11月	気温	平均気温は、高い確率 50 % です。
09月	天候	天気は数日の周期で変わるでしょう。
	気温	気温は、高い確率 50 % です。
10月	天候	近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	気温は、高い確率 50 % です。
11月	天候	近畿日本海側では、期間の前半は、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
	気温	気温は、高い確率 50 % です。
	降水量	降水量は、平年並または多い確率ともに 40 % です。

気温、降水量の各階級の確率 (%)			
気温	近畿地方	09月~11月	10 40 50
		09月	20 30 50
		10月	20 30 50
		11月	20 30 50
降水量	近畿地方	09月~11月	30 30 40
		09月	40 30 30
		10月	30 40 30
		11月	20 40 40

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

※気温・降水量・日照時間は低い・平年並・高い(少ない・平年並・多い)の3階級で予報されます。階級の幅は、平年値の作成期間(1991～2020年)における各階級の出現率が33%となるように決めています。

ホームページアドレス

- ・「兵庫県病虫害防除所（病虫害発生予察情報）」
<https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp>
- ・「病虫害・雑草防除指導指針」
<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>
- ・「兵庫県総合防除計画」
<https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk09/sougouboujyo.html>
- ・「稲・麦・大豆作等指導指針」
https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11_000000107.html

問い合わせ先

本情報に関すること

- ・兵庫県農林水産部農産園芸課農産・野菜班（主作・機械担当）TEL 078-362-3494
農産・野菜班（野菜担当）TEL 078-362-4013
花き果樹班 TEL 078-362-9218

技術内容に関すること

- ・兵庫県立農林水産技術総合センター
 - 企画調整・経営支援部 TEL (0790)47-2435
 - 農業技術センター 農産園芸部 TEL (0790)47-2410
 - 農業技術センター 病虫害部 TEL (0790)47-1222
 - 北部農業技術センター 農業・加工流通部 TEL (079)674-1230
 - 淡路農業技術センター 農業部 TEL (0799)42-4880